

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	京都大学	整理番号	D01
プログラム名称	グローバル生存学大学院連携プログラム		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラムコーディネーター	寶 馨

(評価決定後公表)

(総括評価)

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、未だ形成途上と判断される。グローバル生存学を構成する複数の概念が、全体として安全・安心の実現にどのように寄与するのか、その枠組みは従来の他のアプローチ（例えば防災学）とはどう異なるのか、といった本プログラムの領域に固有の体系的な枠組みを構築することが急務である。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、多様な専攻、研究科から専門の異なる学生が参加し自主的に活動する機会が設けられているほか、インターンシップ、海外研修等、多くの活動が準備されていることは評価できるが、今後の海外の大学との共同研究や産業化に結びつく事業の実施、ネットワーク形成などの積み重ねにより、プログラム修了後の活躍につながることを期待したい。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、総長をトップとする全学体制を構築し、質の高い研究者の参画とともに、企業や国際機関との積極的な交流により、学生の選択肢が広がる様々な取組を行っていることは評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、大学院1年次(L1)の最初の学期を予科と位置づけ、この予科のプロセスで選抜された学生のみを本科生とする2段階選抜方式により質の保証を図るとともに、多様な背景を持った優秀な学生の確保はなされていると判断できる。しかし、応募者数は減少傾向にあり、今後とも多くの優秀な学生が獲得できるよう更なる努力が望まれる。

事業の定着・発展については、「グローバル生存学」のアイデンティティとフレームワークの確立によることから、それらの早急な体系化が求められる。その際、例えば京都大学の知的な伝統である人文科学研究所方式を活用し、プログラム担当者が率先して、多分野横断的かつ学際的な相互討議を深めるなど、関係する教員間での総合討論、学生を含めた更なる検討が必要である。